

めぐみイエス・キリスト教会

2023年6月11日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第661号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌337「愛する主よわが君よ」	p. 676
【交読文】	No.31 詩篇第100篇	p. 904
【賛美Ⅱ】	新聖歌233「驚くばかりの」	p. 668
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「ビジョン」	
【聖書朗読】	使徒の働き27章1節～12節(新約p. 291)	
【礼拝説教】	《ローマを目指して》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1.「アリストアルコ」と「百人隊長ユリウス」とは？

※使徒の働き19章28節～29節「エペソにおいて」 (新約p.275)

19:28 これを聞くと彼らは激しく怒り、「偉大なるかな、エペソ人のアルテミス」と叫び始めた。

19:29 そして町中が大混乱に陥り、人々はパウロの同行者である、マケドニア人ガイオとアリストアルコを捕らえ、一団となって劇場になだれ込んだ。

■アリストアルコ テサロニケ州のマケドニヤ人。パウロの同行者。エペソでデメテリオの騒乱にあい、捕えられた人物。パウロがエルサレムに上る時も、テサロニケ教会の代表として献金を携えて同行した。カ

イサリアから船出する時にも、パウロに付き添っている。ローマでパウロと共に囚人となった。

※使徒の働き10章1節～2節「イタリア隊のコルネリウス」(新約p.253)

10:1 さて、カイサリアにコルネリウスという名の人がいた。イタリア隊という部隊の百人隊長であった。

10:2 彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。

■ユリウス パウロと他の囚人たちをローマへ護送するために任命された親衛隊(イタリア隊)の百人隊長。シドンではパウロを親切に取り扱っており、パウロに対して特別な関心を抱いていた。しかし、パウロの航海についての警告には耳を傾けなかった。

●ポイント2.「良い港」とは？

■良い港(ユリアスカロイ・リメネス) クレテ島の南岸、マタラ岬の東方約8キロの地点にあった港。湾の入口は東に向かい、2つの島に守られており、夏季の投錨(とうびょう)地として、文字通り良い港であった。カンディヤの南にあり、ラサヤの町にも近い。パウロがローマに護送される際に乗り合せたアレクサンドリアの船は、この港にたどり着き、かなり長い間停泊した。

●ポイント3.「学ぶべき二つのこと」とは？

※ヘブル人書10章35節～36節「必要なのは忍耐」(新約p.451)

10:35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。

10:36 あなたがたが神のみ心を行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。

※マルコの福音書4章9節「主イエス様の言葉から」(新約p.71)

4:9 そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」

◎先週の礼拝メッセージ【神の言葉の力とは？】

《使徒の働きに戻ります。フェストゥスが、パウロの言葉に反応します。「おまえは頭がおかしくなっている。博学がおまえを狂わせている。」

この言葉は、一見パウロを批判しているようですが実は違います。パウロの言葉は、フェストゥスの魂の奥底までも揺り動かしました。そのような時には、得てして人は思っていることよりも反対の態度を表わしたり言ったりします。フェストゥスの言葉を受けてパウロは続けます。「フェストゥス閣下、私は頭がおかしくはありません。私は、真実で理にかなった言葉を話しています。王様はこれらのことをよくご存じですので、私は率直に申し上げているのです。アグリッパ王よ、王様は預言者たちを信じておられますか。信じておられることと思います。」
「おまえは、わずかな時間で私を説き伏せて、キリスト者にしようとしている。」ヘブル人への手紙によりますと、

『神の言葉は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。』と、まさに書き記されている通りなのです。

彼らはパウロを通して語られる「神の言葉」の力の前に、心を刺し通され、尻込みして逃げ出しました。神様は、強く悔い改めを迫ったのですが、彼らは決心することはありませんでした。パウロは証しします『兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。』と。私たちは、主イエス様の恵みと哀れみによって召し出された者なのです。そして、パウロに与えられたように、私たちにも、それぞれ使命が与えられています。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、6月18日(日)午前10時からです。